

学部生活の紹介

作業療法学専攻 2年生の皆さん

作業療法学専攻2年の私たちは、男子8人、女子13人の計21人で日々学んでいます。いま、2年生の私たちは、運動学や評価学など、作業療法士として患者さんに関わるうえで土台となる科目の学習・習得に忙しい日々を送っています。学ぶべきことは非常にたくさんあり、大変に思えるときもありますが、得られる学びは知識の範囲を超え、とても貴重なものだと感じています。基礎的な科目だけでなく、1年次から様々な実習もあるため、作業療法を身近に感じつつ学びを深めることができます。なかには名古屋大学だからこそできる貴重な経験もあり、感謝とより一層の努力の必要性を実感し、精一杯勉強に励むことが出来ました。もちろん、勉強だけでなく、みんなが部活動やサークル活動、アルバイト、一人暮らしを頑張っており、毎日が楽しく充実した大学生活となっています。高校生の皆さんは、試験の点数という画一的な物差しで周りと競っていると、自分がなぜ、何のために勉強をしているのか見失ってしまうこともあるかと思いますが、しかし、勉強や受験は誰かを負かすためにあるのではなく、自らの目標に近づくための一歩としてあるのだということを忘れずに、精一杯頑張ってください。一緒に学べる日を楽しみにしています！



大学院生活の紹介

博士後期課程2年 伊佐次 光莉さん



私の大学院での研究テーマは、「重度精神障害者の活動参加」です。精神障害者が地域で長く暮らしていくためにはどの活動が重要となるのか、どのような地域生活支援が有効かを解明したいと思っています。研究を進めると同時に、作業療法士として精神科の病院やデイケアでも働いています。精神障害を持つ方と、日々の治療を通して関わることができるのは、とても貴重な経験だと感じています。また、私はCIBoG(情報・生命医学科コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院)プログラムに参加しています。このプログラムでは、生命医科学だけでなく情報科学を学んだり、他専攻の大学院生や教員と意見交換したり、国内外の企業や研究機関と関わりを持つことができます。名古屋大学にはこの他にも様々なプログラムがあり、専門領域を超えた交流や海外研修等をする機会がたくさんあるので、幅広い知識を身につけ、国際的な視点を持つことができると思います。大学院生活は、学部時代とは大きく異なり、研究と臨床を両立させ、計画的に進める必要がありますし、より自主性が求められます。しかし、自分で考え行動する分、充実して有意義な大学院生活を送ることができるのではないかと感じています。

博士前期課程1年 小井 美波さん

私は卒業研究を行っている時に、もっと研究してみたいと思ったのがきっかけで、学部卒業後そのまま大学院に進学しました。現在は、「労働者のメンタルヘルス」をテーマに、傷病欠勤者や高ストレス者が一緒に働いている労働者集団にどのような影響を与えるかについて調査しています。大学院に進学して驚いたことは、大学院に通いつつ、作業療法士として実際に臨床現場に出る機会があるということです。臨床現場で見たり、学んだりしたことによって視野が広がり、研究に役立つこともあるので、大変勉強になっています。そのため、学部卒業後、すぐに臨床現場に出ようと考えている方も、一度大学院進学を考えてみると良いのではないのでしょうか？名古屋大学では様々なプログラムや支援制度があり、研究をするための環境が整っていると思います。また、大学院では学部の時と比較して、データ解析などに関する講義を多く扱っていると感じます。そのため、医療のみでなく情報技術に関する知識を養う良い機会となると思います。



2か月ほど大学院生活を過ごしてきて、学部時と比較してさらに自身で積極的に学び、行動していく必要があると感じます。しかし、これらの能力は、大学院生だから必要であるというわけではないと思うので、将来のための準備期間として、自分から積極的に様々なことに挑戦していきたいと思っています。受験生の皆さんも、大学卒業後どうしたいかを考えつつ、進路決め、受験勉強を頑張ってください😊